



リーダーの群像

今号の写真は、赤団を掲載しました。白団に負けるとき、悔しさをこらえつつ拍手を送る赤団団長と団員の姿が印象的だったからです。白も赤も最高でした。

運動会、いかがでしたでしょうか。我々が言う自画自賛になりますし、ここで満足してはいけないこともよく分かっています。期待通り、いや期待以上の運動会でした。職員は同じ話を何度も繰り返し返しては、その度に目を潤ませました。また、我が子の成長を見て涙する保護者の方々が、何人もおられたと聞いています。我々にとっては、そんな感動の共有がまたうれしいことでした。

さて、良い学びは新たな学びにつながるものです。運動会の学びを、子どもたちがこれからの生活に生かすことができれば、さらに成長した姿を見せてくれるはず。我々教師の期待は際限なく（欲深く）、そして子どもたちもそれに応える（無限の）力を秘めています。

さて、運動会後、応援団の子どもたちに次の質問をして、たくさんのお返事をもらいました。

問：運動会で応援団をしたことで、自分のどんなところが成長しましたか？

（回答に共通するキーワード）
自信／我慢強さ／あきらめない心／大きい声／体力／
堂々とした態度／みんなとの協力／勇気／最後までやる
精神／高学年としての自覚／ルールを守る／みんなのため
にがんばる力／仲良くする力／いろんな人としゃべる
力／支えてくれる人に気づく力 等

大切なことばかりです。それぞれが素晴らしい学びを得ていたことがよくわかりました。

今後の彼らに期待するのは、この経験を生かした学校のリーダーとしての姿です。応援団の子どもたちにこのことを伝えたら「はい！」と、すばらしい返事が返ってきました。では、どんな場面でどう振る舞えばリーダーとしての役割を果たせるのか、ということ。そこが、これからの学びではないでしょうか。

子どもたちが考えるリーダーとは、人前に出て、堂々と、パンパン指示を出すような姿を想像しがちです。キーワードはそのことも物語っています。確かにキーワードに出ていることは、子どもたちが身につけてほしい大事な力ではありません。しかし、これらのキーワードに加えて、次のようなことを書いていた子どもたちもいたのです。

自分から正しいことを自信を持って行動ができるようになった／自分で考えて行動する力が身についたと思います。リーダーになって責任を感じられるようになり、失敗を恐れず、挑戦ができた／人の気持ちを考えられるようになった／高学年として、低学年や中学年に恥ずかしくないような行動をすること

これらに共通するのは、まず「自分」（自分の考え）があるということ。そして、自分以外の「だれか」や「みんな」のことを考えているということ。大きな声を出すのが苦手でも、自分から正しいことを自信を持って行動できる人や、自分で考えて行動できる人は、周りの雰囲気にならぬ強い気持ちをもった立派なリーダーです。また、全体のことに責任を感じたり、人の気持ちを考えられる人、下級生に恥ずかしくない行動をしようとする人も間違いなく立派なリーダーです。声が大きいとか、堂々としていたり、体力があるとかよりも、学校やクラスなど、みんなにとって良いことは何かを考え、行動しようとしている人がリーダーだと思います。

この運動会では応援団の二人の団長をはじめ、応援団以外の子どもたちも係の役割を果たしたり、開閉会式の役割があったり、団席で一生懸命応援したりと、リーダーらしい様々な姿がありました。そうした子どもたちの多くは、リーダーの自覚はなかったかもしれない。しかし、やっていることはリーダーです。自分にもリーダーの心意気があること、リーダーとして行動しようと思えること、そんなことを自覚して、今後、様々な場面で活躍して欲しいです。力はあとからついてくるものです。

もしかして、これからリーダーだらけになるかもしれない。でも、リーダーだらけの西南小、いいじゃないですか！ そんな学校は他にありませんね。

山口慶太さんの閉会の言葉、とても良かったです。



この背中にリーダーとしての心意気が見えました。